

# Chemical Bonds 支部／教育・普及部門だより

## 九州支部発

### 第 107 回化学への招待

2022年12月17日(土)に九州大学伊都キャンパスウエスト1号館にて、九州支部主催の「第107回化学への招待」を開催いたしました。体験実習型の本イベントは、九州・沖縄地区で年4回企画されており、毎回各地で青少年および市民の皆様にご好評を頂いております。第107回を迎える本イベントは、当初2020年に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催延期を余儀なくされました。この度、九州大学理学部化学科教員および学生の協力のもと、同感染症の感染・予防策を講じた上で、6年ぶりに開催する運びとなりました。

13時より、九州大学大学院理学研究院教授の加納英明先生による開会宣言の後、36名の参加者(全て高校生)が、以下の6つの実験テーマに分かれて体験実習を行いました。A)身近な飲み物のカフェイン濃度を測定してみよう！ B)金属錯体を使ったガスセンサーを作ろう！ C)パソコンで化学実験をしよう！ D)細胞膜の分子を目で見よう！ E)光る！消える！触媒のはたらきを見よう！ F)分光器を作って色素の吸収・発光スペクト



ルを測ってみよう！ 途中休憩を挟みながら、実験終了予定の16時40分まで実習を行い、定刻の17時に解散となりました。参加した高校生が実験に真剣に取り組む様子がとても印象的で、座学では得ることのできない貴重な体験を通じ、化学により一層興味を持ってくれたのではないかと思います。本イベントの参加者が将来化学の道を志すようになれば、この上ない喜びです。

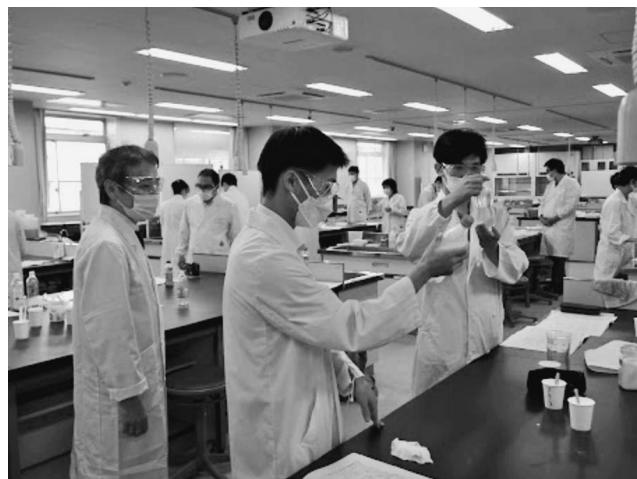
(堀尾琢哉 九州大学大学院理学研究院准教授)

## 普及交流委員会発

## 第8回中高理科（化学）授業に役立つ研修会

東邦大学理学部教員養成課程と日本化学会共催による本研修会が2022年8月11日（山の日）、千葉県船橋市の東邦大学習志野キャンパスで開催された。当日は、中・高・大学の教員、および教職を目指す東邦大学の学生が32名（海外勤務の高等学校理科教員も含む）参加した。本研修会は、2015年より講演と実験の二本立てで開催している。今年は昨年と同様にハイブリッド形式での開催となり、オンライン参加者も22名で、米国からの参加もあった。その多くは中等教育の理科教員であったが、横浜市立大学、神奈川大学大学院などの理科教員志望学生の申し込みもあった。

最初に寺田光宏先生（岐阜聖徳学園大学教授）より“資質・能力育成をめざした「概念」を中核とした文脈的な



学授業デザイン”と題して講演と授業デザインの実習があった。次いで実験研修のプログラムでは吉田工先生（東京都立青山高等学校指導教諭、第30回化学教育有功賞受賞）が講師となり、“生徒が主体的に対話的に学ぶ実験”と“生徒実験の型”と題して、実験「炭酸飲料の製造」と「単位格子模型の製作」を実施した。また、現地参加者・オンライン参加者を対象に、日本化学会特設サイトから研修会資料、講演・実習や実験研修の様子、研修会前に新規に製作した実験動画等を9月末日まで期間限定で視聴できるようにした。さらに、研修会のフォローアップとして、12月19日には「第1回化学実験をベースとした授業づくり Workshop」をZoomとSlackを活用して開催した。第2回を2023年3月16日、第3回を2023年5月～7月に開催予定である。

（今井 泉 東邦大学理学部教授）

